

ウィズコロナ対応の薬局運用支援

PHC

PHCは、デジタル技術を活用した薬局運用ソリューションを展開している。

利用者が46万人を超える電子版お薬手帳アプリ「ヘルスケア手帳」の特徴は、服薬情報の管理だけでなく、処方箋の事前送付機能を搭載していること。来局時の待ち時間を削減させることで新型コロナウイルスの感染リスクを低減できる。

さらに今回、患者とのコミュニケーションをより円滑にするためのフォローアップ・メッセージ機能も搭載した。この機能は、薬機法改正に伴い9月から新たに義務化された服薬期間中のフォローアップ（薬剤使用状況の把握と適切な情報提供）を補助することを目的としたもの。

薬局側からメッセージを送ることができ、患者側は直接メッセージを入力して返信する以外にも、選択肢や電話

の希望時間を選ぶだけの簡単操作でも返信することが可能となり、これらの内容を電子薬歴に取り込むことで、薬歴記載時間の短縮につながることを期待される。

タブレットを使って対面で服薬指導を行うことができる「クラウド薬歴DrugstarLead」は、新たに非接触で患者アンケートを実施できる新機能「ヒアリングMe.」を搭載した。

タブレットに表示されるQRコードを患者個人のスマートフォンで読み取れば薬局の外からでもアンケートに答えることができるという機能となる。薬局内で、感染リスクを最小化する取り組みを継続しながらの患者対応が求められる中、駐車場の車内や自宅などからもアンケートに回答することができるため、待合室の密を軽減できただけでなく、アンケートホルダーやペンの消毒、アンケート用紙の廃棄作業な



どの軽減につながることを期待される。

2021年3月から開始予定のオンライン資格確認は、患者のマイナンバーカードもしくは健康保険証を利用して保険資格の有効性を自動的にオンラインで確認する、新たな医療保険の資格確認システム。

同社は、医療機関・保険薬局向け医事コンピュータ（レセプトコンピュータ）とパナソニックシステムソリューションズジャパンが開発する「顔認証付きカードリーダー」とのシステム連

携を進めており、資格確認専用端末と医事コンピュータの一体化を実現。非接触（顔認証）で認証し、患者の同意を得た保険資格情報を直接、医事コンピュータに登録する。

これにより、医療機関が資格確認専用端末を追加購入する必要がなくなる上、新たな設置場所も不要となり、スペースの限られた診療所や薬局などでも無理なくオンライン資格確認システムの導入が可能になる。

現場薬剤師が作った薬歴アプリ

C.Medical「ConnectReport」

ゆうホールディングスのグループ会社であるC.Medicalが開発、販売している薬歴アプリ「ConnectReport（コネクトレポート）」の外來業務機能が7月に刷新された（在宅版のみの契約は除く）

ConnectReportは、レセプトコンピュータと連携することにより、クラウド上に患者情報や処方情報などを保存・一括管理できる薬歴アプリ。アプリの開発には、現場の薬剤師が携わったことで、現場の声が多く反映されており、使いやすい仕様になっている。

ConnectReportの画面は、左から今回、前回、前々回の処方薬が一覧で表示され、前回処方があり今回削除の薬は「青色」、初めての薬は「赤色」、変更点は「黄色」、追加された薬は「ピンク」と色分けされるので、処方の変更点をすぐに確認できる。処方薬を経時的に一覧表示もでき、いつどのよう

な薬が処方されたかが一目で分かる。さらに、データベース機能が追加され、医薬品の相互作用や疾患と医薬品などの鑑査情報が画面に表示されるようになった。

バイタルや検査値も一覧で表示できるほか、画面に表示された処方薬をクリックするとPDFファイルの添付文書を見ることができ、服薬指導に役立つ。各店舗の薬歴内容を本部で閲覧することも可能。

また、在宅支援システムも充実している。在宅現場での報告書や薬歴の入力もiPadなどのタブレット端末でできるため、薬局に戻ってからの報告書や薬歴作成が軽減される。グループ管理機能やカレンダー機能（訪問日管理）もある。

グループ管理機能は、訪問施設ごとに患者情報の閲覧ができ、部屋番号順や往診順などの並び替えの設定が任意

にできる。カレンダー機能は、カレンダー画面から、訪問施設や患者情報の確認が可能。報告書作成時に次回訪問予定を入力すればカレンダーに自動反映され、日付をタップすると、その日の訪問予定が確認できるなど、作業の効率化に役立つ。

患者情報画面から地図ボタンを押すと地図アプリが起動し、現在地から訪問場所までのルートを表示するため、所要時間や経路把握に役立つ。

アプリの写真機能を使えば、端末に個人情報を残さずに画像で視覚的に情報共有ができ、報告書へ写真を添付することで多職種との情報共有もできる。患者自身に紐づいた情報なども画像で保存できるため、一包化の作成方法やお薬カレンダーのセット方法など担当者以外の薬剤師でもスムーズな対応が可能となる。

入力したデータは全てクラウドに保存されるため、外來業務、在宅業務で



記入した情報は瞬時に同期されるほか、セキュリティ面も通信の暗号化とクライアント認証によって確保。事前に登録している端末であれば、どの端末からでもアクセスできるため、時間外や急な問い合わせにも場所や時間を選ばずに迅速に対応できる。

利用料金は、初回のレセコンとの接続費用と月額使用料金のみで、端末の台数に関係なく、更新費用などはかからない。

第53回 日本薬剤師会学術大会

(順不同)

CRECON
RESEARCH & CONSULTING

クレコンリサーチ&コンサルティング株式会社

代表取締役社長 木村 仁

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷二丁目1番5階

電話 〇三(三四〇七)二〇一四番

中北薬品株式会社

代表取締役社長 中北 馨介

〒460-8515 名古屋市中区丸の内三丁目15番15(油伊ビル)

電話 〇五二(八九七一)三六八一

東邦薬品株式会社

全ては健康を願う人々のために

東京都世田谷区代沢五丁目1番1

電話 〇三(三四一九)七八一一

栃木県医薬品卸協会

会長 山田 和正

〒321-0911 宇都宮市周屋町三丁目1番1

電話 〇二八(六五六)五五四四

関西医薬品協会

会長 前川 重信

〒541-0044 大阪市中央区伏見町二丁目1番1

電話 〇六(六二三一)九一九一

JACDS

社団法人 日本チエーンドラッグストア協会

会長 池野 隆光

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一丁目1番1

電話 〇三(三五〇〇)六一〇〇

公益社団法人 薬剤師認定制度認証機構

代表理事 吉田 武美

〒105-0003 東京都港区西新橋一丁目九番二

電話 〇三(三五一九)五八三八

JAPIC
Japan Pharmaceutical Information Center

一般財団法人 日本医薬情報センター

会長 村上 貴久

〒150-0002 渋谷区渋谷二丁目1番15(長井記念館)

電話 〇三(五四六六)一八一一番

URL: <https://www.japic.or.jp>